

【道路事業（県事業） 再評価審議資料】

○再評価実施箇所一覧表	・・・p. 1
○再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について	・・・p. 3
○再評価実施箇所（附図）	・・・p. 5
○説明資料（パワーポイント）	
① 道路改築事業 「主要地方道 国府見座線 十三墓峠工区」	・・・p. 11
② 道路改築事業 「主要地方道 大垣養老公園線 鷺巣工区」	・・・p. 19
③ 道路改築事業 「一般国道 257号（濃飛横断自動車道） 中津川工区」	・・・p. 27
④ 道路改築事業 「一般県道 羽島稻沢線 下中町工区 新濃尾大橋（仮称）」	・・・p. 37
⑤ 道路改築事業 「市道 跡津川線 跡津川工区」	・・・p. 47

令和4年度 再評価対象箇所一覧表 11月16日審議箇所

[県土整備部 道路建設課]

番号	事業名	路線・地区 ・河川名等	実施箇所 (市町村名)	採択 年度	完了 予定 年度	事業概要		全体事業費 (百万円)		実施済み額 (百万円)		進捗率 (%)		経過年数 (R5.3現在)	政策との 位置付け	関連事業の 進捗状況	社会経済情勢等の 変化及び 地元の意向	環境との調和への 配慮事項	事業費 縮減	費用対効果 果分析	対応方針 (案)	特記事項
						全体事業量 (km)	実施事業量 (km)	事業 実施率	用地補償費 工事費等	用地補償費 工事費等	用地補償費 工事費等	用地補償費 工事費等										
1	道路改築事業 (交付金)	(主) 国府見盛線 十三臺峠工区	高山市	H20	R11	1.74	0.00	0.0%	3,000	2,508	84.0%	15	・災害時に有効 に機能するネット ワークの確保 ・狹隘・線形不 良箇所の解消に よる円滑な交通 の確保	-	-	・高山国府バイパス、 中部縦貫自動車道 の整備 ・観光振興 ・事業継続、早期 完成を要望	-	1.3 (1.1)	継続	前回 再評価 H29		
2	道路改築事業 (交付金)	(主) 大垣養老公園線 鷺巣工区	養老町	H14	R10	1.55	0.00	0.0%	3,725	2,165	58.0%	21	・観光交流や産 業振興の推進 ・災害時に有効 に機能するネット ワークの確保	-	・東海環状自動車 道(西回り区間) の一般開通 ・養老IC～(仮 称)北勢ICの開通 見通しの発表 ・事業継続、早期 完成を要望	-	1.6 (1.7)	継続	前回 再評価 H29			
3	道路改築事業 (補助)	(国) 257号 (濃飛横断自動車道) 中津川工区	中津川市	H28	R9	5.08	0.00	0.0%	44,000	6,566	15.0%	7	・観光交流の推 進 ・災害時に有効 に機能するネット ワークの確保 ・渋滞緩和によ る円滑な交通の 確保	-	・中津川都市計画 事業 ・リニア岐阜 県東部同地区区画 整理事業の推進 ・事業継続、早期 完成を要望	希少な動植物に配 慮した工事の実施	-	1.2 (2.0)	継続	前回 再評価 R2		
4	道路改築事業 (補助)	(一) 羽鳥郷沢線 下中野工区 新瀬尾大橋(仮称)	羽島市	H13	R7	3.10	0.00	0.0%	29,020	26,040	90.0%	22	・渋滞緩和によ る円滑な交通の 確保 ・隣接区との産 業振興の推進 ・災害時に有効 に機能するネット ワークの確保	-	・岐阜羽島10周辺 開閉の進展 ・事業継続、早期 完成を要望	希少な動物に配慮 した工事の実施	-	1.2 (1.2)	継続	前回 再評価 R2		
5	道路改築事業 (交付金)	(市) 跡津川線 跡津川工区	飛騨市	H16	R9	0.89	0.00	0.0%	3,051	1,224	40.0%	19	・狹隘・線形不 良箇所の解消に よる円滑な交通 の確保 ・学術研究の支 援	-	・研究施設の拡張 ・事業継続、早期 完成を要望	希少な動物に配慮 した工事の実施	-	2.1 (2.7)	継続	前回 再評価 H29		

費用対効果分析：()は前回再評価時の投資効果率

令和4年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 道路建設課

○事業制度について	事業名	道路改築事業	
	事業目的	地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ること。	
	採択基準	地域住民の日常生活の安全性若しくは利便性の向上を図るために必要であり、又は快適な生活環境の確保若しくは地域の活力の創造に資すると認められるもの。	
	概要 (メニュー)	現道の拡幅や線形改良またはバイパス等の建設	
○費用対効果の分析について *費用便益 B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≪B≫	<ul style="list-style-type: none"> ・走行時間短縮便益 ・走行経費減少便益 ・交通事故減少便益
		その他項目	
	費用 ≪C≫ の算定	費用の積み上げ基準＝道路整備に要する事業費＋道路維持管理に要する事業費＋道路構造物の更新に要する事業費* 現在価値算出のための社会的割引率：4% 基準年次：評価時点 検討年数：50年間 <small>※道路構造物の更新に要する事業費は、評価対象期間末までに耐用年数等に達する構造物がある場合に計上する</small>	
費用便益比の基準	原則費用便益比 (B/C) 1.0以上		

令和4年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番号	1	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業（社会資本整備総合交付金） 主要地方道 国府見座線 十三暮峠工区
事業実施箇所	たかやましこくふちようようかまち 高山市国府町八日町 ～ たかやましこくふちようようかまち 高山市国府町八日町	事業主体	岐阜県
採択年度	平成20年度	完了予定年度	令和11年度
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年間が経過した時点で継続中の事業		
事業目的	<p>主要地方道国府見座線は岐阜県高山市国府町広瀬を起点とし、岐阜県高山市上宝町見座へ至る延長28.6kmの幹線道路である。当該事業は、このうち高山市国府町八日町の約1,740mの区間について現道拡幅を行うものであり、災害時に有効に機能する緊急輸送道路ネットワークの確保や、救急搬送経路の確保、通勤通学時における地域の足の確保を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：1,740m 車道幅員：2.75m×2車線</p>		
概要図			

令和4年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番号	2	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業 主要地方道 大垣養老公園線 鷺巣工区
事業実施箇所	養老郡養老町飯ノ木 ～養老郡養老町鷺巣		事業主体 岐阜県
採択年度	平成14年度	完了予定年度	令和10年度
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年間に経過した時点で継続中の事業		
事業目的	主要地方道大垣養老公園線は、岐阜県大垣市静里町を起点とし、岐阜県養老郡養老町に至る延長約10.1kmの主要幹線道路である。当該事業は、現道のバイパス路線となる1,550mの2車線道路であり、災害時の緊急輸送機能の強化、東海環状自動車道養老ICへのアクセス向上を目的としている。		
事業概要	事業延長 : 1,550m 車道幅員 : 3.0m×2車線 自転車歩行者道幅員 : 3.0m (両側)		
概要図	<p>位置図</p> <p>写真①</p> <p>写真②</p> <p>凡例 事業区間</p>		

令和4年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番号	3	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業（地域高規格道路整備補助） 一般国道257号（濃飛横断自動車道） 中津川工区
事業実施箇所	なかつがわしこまんぼ なかつがわしなすびがわ 中津川市駒場～中津川市茄子川		事業主体 岐阜県
採択年度	平成28年度	完了予定年度	令和9年度
再評価の実施基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により、再評価の実施の必要があると判断をした事業		
事業目的	<p>濃飛横断自動車道は郡上市を起点とし、中津川市へ至る延長約80kmの高規格道路である。</p> <p>当該事業は、このうち中津川市駒場～中津川市茄子川地内の5,080m区間をバイパス整備するものであり、リニア中央新幹線（仮称）岐阜県駅の開業に合わせて整備を実施し、観光交流の推進、災害時に有効に機能するネットワークの確保、渋滞緩和による円滑な交通の確保を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：5,080m</p> <p>事業幅員：3.25×2車線（（仮称）リニア駅ICより北側） 3.25×4車線（（仮称）リニア駅ICより南側）</p>		
概要図	<p>濃飛横断自動車道 中津川工区 L=5,080m</p> <p>至瑞浪市</p> <p>至下呂市</p> <p>至南木曾町</p> <p>©岐阜県</p>		
	<p>写真①</p> <p>写真②</p>		

令和4年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	4	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業（都道府県境道路整備補助） 一般県道 羽島稲沢線 下中町工区（新濃尾大橋（仮称））
事業実施箇所	はしまししもなちよう 羽島市下中町 あいちけんいちのみやしめいち ～愛知県一宮市明地	事業主体	岐阜県（愛知県）
採択年度	平成13年度	完了予定年度	令和7年度
再評価の実施基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要があると判断をした事業		
事業目的	<p>一般県道羽島稲沢線は、羽島市を起点とし愛知県稲沢市に至る路線である。当該事業はこのうち木曾川渡河部の約3.1km区間（内岐阜県事業区間約1.5km）を整備するものであり、主要骨格幹線ネットワークの整備推進、渋滞緩和による円滑な交通の確保、隣接県との産業振興の推進、災害時に有効に機能するネットワークの確保を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：3.1km 車道幅員：3.25m×2車線 自転車歩行者道幅員：3.0m（土工部両側、橋梁部片側）</p> <p>主要構造物：新濃尾大橋 L=0.8km（759m）（※構造物名は仮称）</p>		
概要図	<p>The map shows the project route in red, starting from the Gifu side (岐阜県) and crossing the Muro River (木曾川) via a temporary bridge (仮称新濃尾大橋). The route continues into Aichi Prefecture (愛知県) to the end point (終点) in Ichinomiya City (一宮市). Key landmarks include the Tokai Shinkansen (東海道新幹線), Meitetsu Line (名神高速道路), and various local roads. Three photographs are marked on the map: 写真① at the Gifu side access road, 写真② at the bridge construction site, and 写真③ at the Aichi side. A legend indicates the project area (事業区間) with a red line.</p>		
	<p>写真①: 岐阜県側取付道路の状況 写真②: 橋梁下部工の状況 写真③: 愛知県側の状況</p>		

令和4年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番号	5	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業 2級市道 跡津川線 跡津川工区
事業実施箇所	飛騨市神岡町土 ～飛騨市神岡町跡津川	事業主体	岐阜県 (飛騨市の県代行)
採択年度	平成16年度	完了予定年度	令和9年度
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年間が経過した時点で継続中の事業		
事業目的	<p>2級市道跡津川線は、岐阜県飛騨市神岡町土を起点とし、東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設（スーパーカミオカンデ）の入口を経由し、岐阜県飛騨市神岡町佐古へ至る延長約5.9kmの道路である。当該事業はこのうち岐阜県飛騨市神岡町土から岐阜県飛騨市神岡町跡津川の894m区間を拡幅（一部バイパス）するものであり、隘路・線形不良区間の解消による円滑な交通の確保、学術研究の支援を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：894m 車道幅員：2.75m×2車線 主要構造物：トンネルL=349m、橋梁L=39m</p>		
概要図			
	写真①: 現道の状況	写真②: 現道の状況	写真③: 終点部付近の状況
			

事業再評価 道路改築事業

主要地方道 国府見座線

じゅうさんぼとうげ
(十三暮峠工区)

岐阜県 県土整備部 道路建設課
令和4年11月16日



位置図1



位置図2

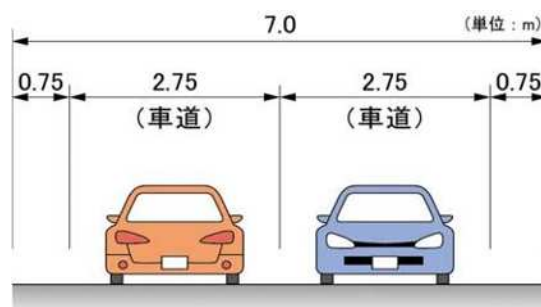


2

事業概要

- ◆ 起 終 点 : たかやまし こくふちよう ようかまち 高山市国府町八日町 ~ たかやまし こくふちよう ようかまち 高山市国府町八日町
- ◆ 全体延長 : 1, 7 4 0 m
- ◆ 総事業費 : 約 3 0 億円
- ◆ 事業着手 : 平成 2 0 年度
- ◆ 完成予定 : 令和 1 1 年度
- ◆ 道路規格 : 3 種 4 級
- ◆ 幅 員 : 車道 2. 7 5 m × 2 車線

標準横断面図



3

事業の目的①

安全・安心：災害時に有効に機能するネットワーク確保

- (主) 国府見座線の現道は、第二次緊急輸送道路に指定されているが、沿道は幅員が狭く家屋が連坦する区間がある
- 当該工区の整備により、ダブルネットワークが形成され、緊急輸送道路ネットワークの強化が図られる

○緊急輸送道路指定状況と救急搬送ルート



上宝町と地域災害拠点病院である高山市街の病院及び、消防、県広域防災拠点等を**最短で結ぶルート**である。

上宝町～高山市街への所要時間



出典：平成27年道路交通センサス
(速度は混雑時平均旅行速度を採用)

4

事業の目的②

安全・安心：隘路・線形不良箇所解消による円滑な交通の確保

- 上宝町の高校生は高山市街へ通学している
- 地元の強い要望により、上宝町地内⇄高山市街を連絡する路線バスのダイヤが改正され、増便されている
- 当該工区の整備により、上宝町地内と高山市街とのアクセスの向上が期待される



上宝町～高山市街 路線バスの運行本数

年次	運行本数
H18	2本/日
H24	4本/日
H29	4本/日
R2	4本/日

出典：濃飛乗合自動車株式会社HP

(主) 国府見座線
を經由する乗合
バス



5

事業を巡る社会経済情勢等の変化

◆地域間をつなぐ道路網の形成、地域振興の促進

- 近年、高山国府バイパスが完成し、中部縦貫自動車道が事業中
- 周辺の主要な道路の整備に合わせ、道路網の形成や災害時における緊急輸送道路の確保が必要
- 高山市街だけでなく奥飛騨温泉郷などの周辺地域の観光振興を支援



6

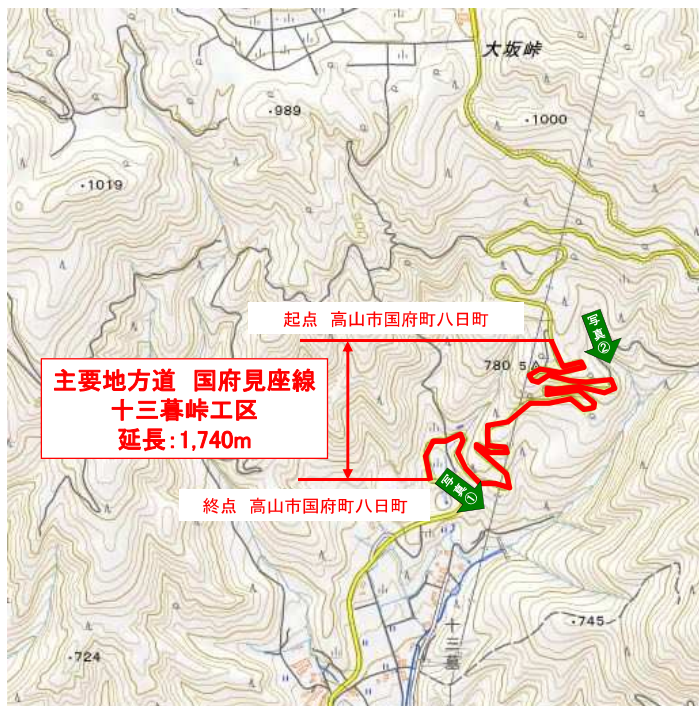
事業の進捗状況

全体進捗率 84% ※

用地進捗率 100% ※

工事進捗率 84% ※

※ 令和4年度末事業費ベース
 << 工事進捗状況 >>



7

事業の施工状況



- 引き続き道路改良工事を実施

8

コスト縮減の取り組み

- 発生土の流用等によるコスト縮減は計画段階から取入れた上で、最適な計画で工事を実施していく。
- 今後も技術革新による新工法、新材料等の情報を積極的に収集し、コスト縮減にむけ継続的に検討していく。

9

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 89%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 10%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

投資的効果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.3 \quad \left[\begin{array}{l} \text{前回再評価時} \\ \text{(平成29年度)} \\ 1.1 \end{array} \right]$$

※費用便益分析マニュアル（国土交通省 R4.2）に基づき算出

10

今後の方針(案)

○（主）国府見座線十三暮峠工区の完成は、緊急輸送道路ネットワークの強化など、当該地域の安全や発展に大きく寄与する。

○地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある



＝供用に向け、事業継続＝

11

令和4年度第5回
岐阜県事業評価監視委員会
費用対効果分析資料

■事業名

【道路事業】 「主要地方道 国府見座線 十三暮峠工区」

■事業内容

現道拡幅 延長L=1.7Km、幅員W=7.0m

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：H29)	(基準年：R4)	
事業期間		H20～R11	H20～R11	
費用 (億円)	事業費	26.2	35.0	
	維持管理費	0.7	0.9	
	合計(C)	26.9	35.9	
	効果 (億円)			
	走行時間短縮便益	28.1	40.3	
	走行経費減少便益	1.8	4.6	
	交通事故減少便益	0.1	0.4	
	合計(B)	30.0	45.2	
費用対効果分析結果(B/C)		1.1	1.3	

※金額は、社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したものの。

■費用対効果分析の分析方法

・費用便益分析マニュアル/国交省道路局 都市・地域整備局/R4.2

■費用対効果分析結果の要因変化

【費用】

- ・費用を現在価値化する際の基準年を平成29年から令和4年に変更したことによる影響
- ・事業費の変更による影響

【C=+9.0億円】

【便益】

- ・費用便益マニュアルの改訂(令和4年2月)による、時間価値原単位、走行経費原単位、交通事故損失額算定式の変更に伴う影響
- ・便益を現在価値化する際の基準年を平成29年から令和4年に変更したことによる影響

【C=+15.2億円】

事業再評価 道路改築事業

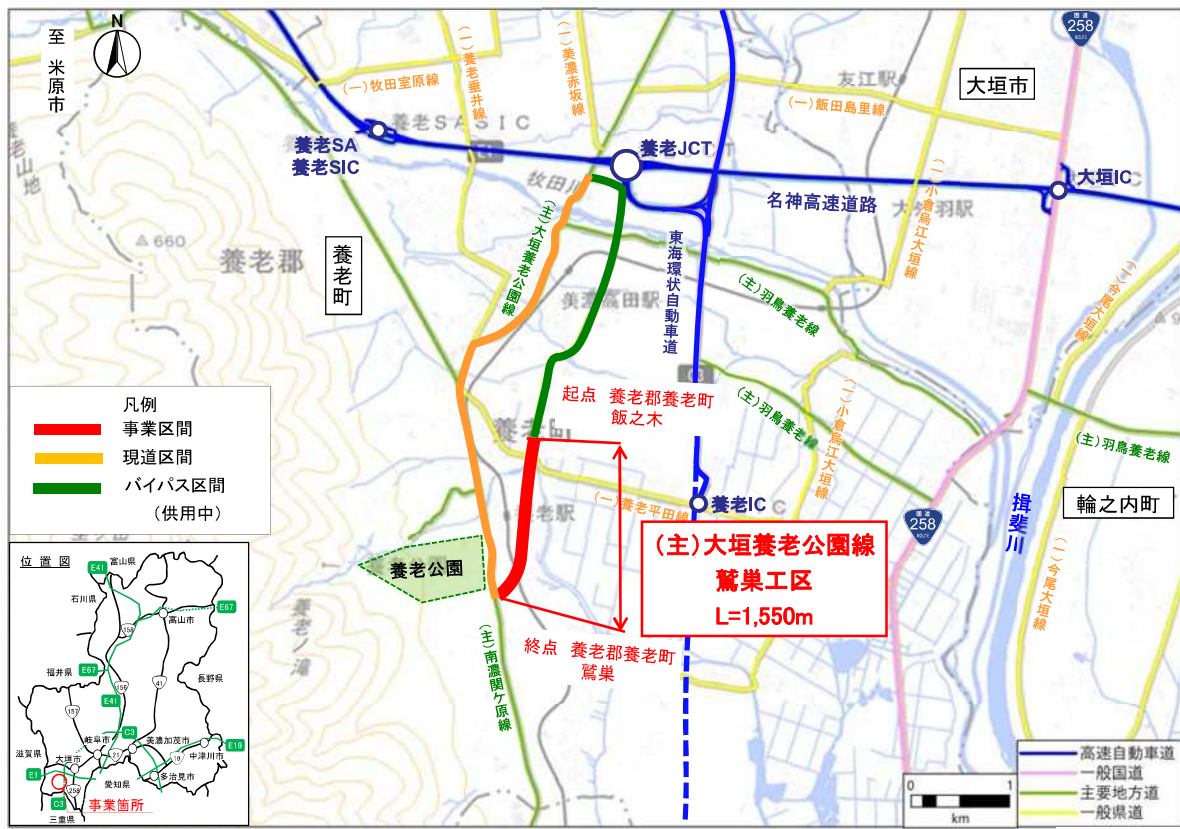
主要地方道 大垣養老公園線

わしのす
鷺巣工区

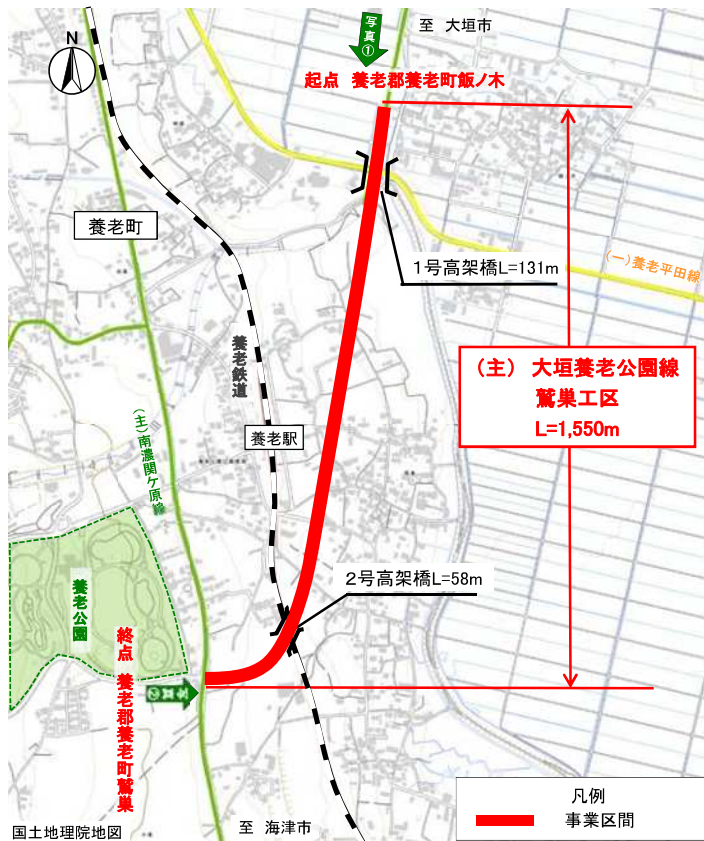
岐阜県 県土整備部 道路建設課
令和4年11月16日



位置図1



位置図2



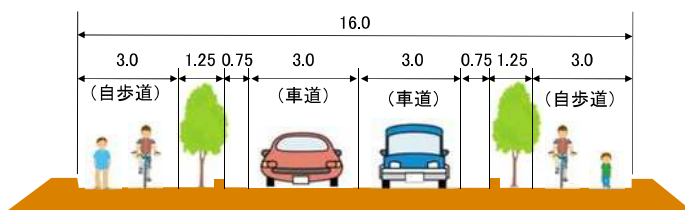
2

事業概要

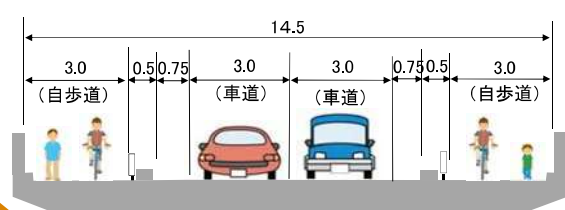
- ◆起 終 点：養老郡養老町飯ノ木^{はんのき}～養老郡養老町鷺巣^{わしのす}
- ◆全体延長：1, 550m
- ◆総事業費：約37億円
- ◆事業着手：平成14年度
- ◆完成予定：令和10年度
- ◆道路規格：3種3級
- ◆幅 員：車道 3.0m×2車線
：自転車歩行者道 3.0m（両側）

標準横断面図

【土工部】



【橋梁部】



単位：m 3

事業の目的①

活力：観光交流の推進

- 当該工区の終点に位置する県立養老公園は西濃地域の観光施設の中で3番目に入込客数が多い施設である
- 当該工区の整備により、養老公園～養老ICのアクセス性が向上し、観光客のさらなる増加が期待される

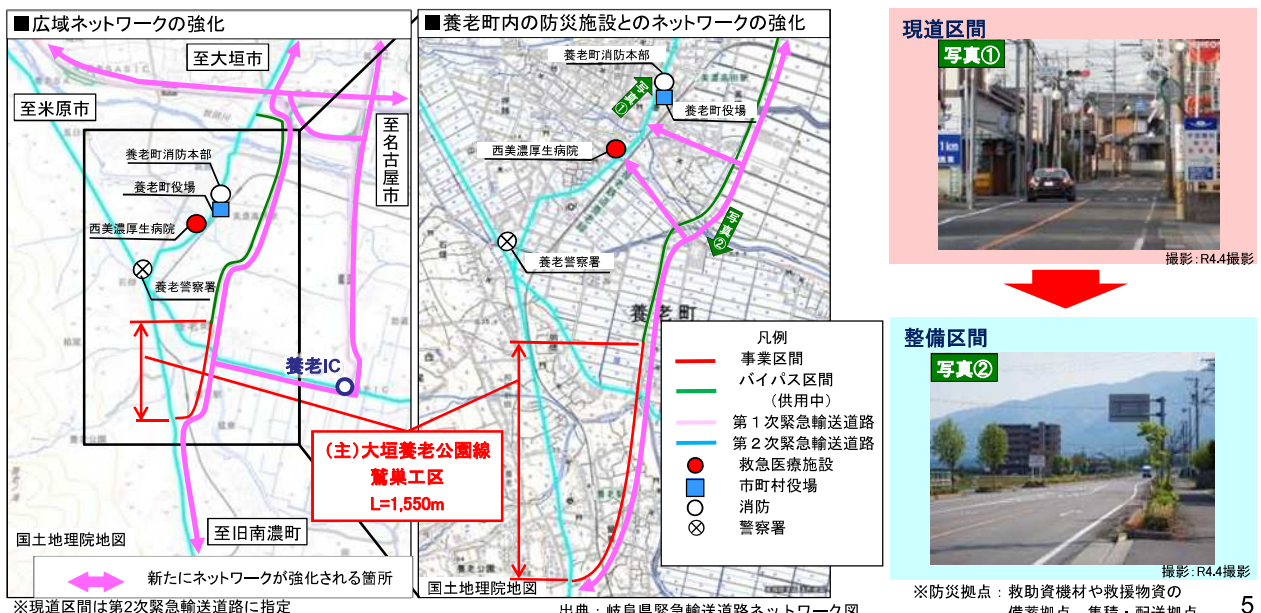


※養老公園は「楽市楽座・養老」、「養老天命反転地」「岐阜県こどもの国」を含む
出典：令和2年岐阜県観光客入込客統計調査 4

事業の目的②

安全・安心：災害時に有効に機能するネットワーク確保

- (主) 大垣養老公園線の現道は、第二次緊急輸送道路に指定されているが、沿道は幅員が狭く家屋が連坦する区間がある
- 当該工区の整備により、緊急輸送道路ネットワークの強化が図られる



事業を巡る社会経済情勢等の変化

◆新たな工場立地の状況

- 南濃関ヶ原線沿道は、近年、多くの物流施設、工場が立地している
- 当該事業区間の開通により、南北軸の機能強化、養老インターチェンジへのアクセス向上が図られ、産業振興が進むことが期待される



■株式会社サラダコスモ養老生産センター ■サンケミカル株式会社



■ミツウロコパレージ岐阜養老工場

■丸正運送有限公司



※工場・物流施設は養老町、海津市（旧南濃町）に所在する施設のみ

事業の進捗状況

全体進捗率 58% ※

用地進捗率 91% ※

工事進捗率 46% ※

※ 令和4年度末事業費ベース

《工事進捗状況》



事業の施工状況

下部工施工状況



- 令和2年度から橋梁下部工に着手

8

コスト縮減の取り組み

- 発生土の流用等によるコスト縮減は計画段階から取入れた上で、最適な計画で工事を実施していく。
- 今後も技術革新による新工法、新材料等の情報を積極的に収集し、コスト縮減にむけ継続的に検討していく。

9

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 88%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 11%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

投資的効果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.6 \quad \left[\begin{array}{l} \text{前回再評価時} \\ \text{(平成29年度)} \\ 1.7 \end{array} \right]$$

※費用便益分析マニュアル(R4.2 国土交通省)に基づき算出

10

今後の方針(案)

○(主) 大垣養老公園線鷺巣工区の完成は、東海環状自動車道 養老ICへのアクセス向上、緊急輸送道路ネットワークの強化など、当該地域の安全や発展に大きく寄与する。

○地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



= 供用に向け、事業継続 =

11

令和4年度第5回
岐阜県事業評価監視委員会
費用対効果分析資料

■事業名

【道路改築事業】「主要地方道 大垣養老線 ^{わしのす} 鷺巣工区」

■事業内容

バイパス整備 延長L=1.6km、幅員W=16.0m

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：H29)	(基準年：R4)	
事業期間		H14～R5	H14～R10	
費用 (億円)	事業費	43.2	42.6	
	維持管理費	2.0	1.0	
	合計(C)	45.1	43.6	
効果 (億円)	走行時間短縮便益	63.8	59.5	
	走行経費減少便益	8.4	7.7	
	交通事故減少便益	2.7	0.6	
	合計(B)	75.0	67.8	
費用対効果分析結果(B/C)		1.7	1.6	

※金額は、社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したものの。

■費用対効果分析の分析方法

・費用便益分析マニュアル/国土交通省 道路局 都市局/R04.2

■費用対効果分析結果の要因変化

【費用】

- ・費用を現在価値化する際の基準年を平成29年から令和4年に変更したことによる影響
- ・事業費減並びに事業期間が延長されたことによる影響

【C=-1.5億円】

【便益】

- ・将来OD表の変更による計画交通量の変更に伴う影響
- ・費用便益分析マニュアルの改訂(R4年2月)による、時間価値原単位、走行経費原単位、交通事故損失額算定式の変更に伴う影響
- ・便益を現在価値化する際の基準年を平成29年から令和4年に変更したことによる影響
- ・事業期間が延長されたことによる影響

【B=-7.2億円】

事業再評価 道路改築事業

一般国道257号

のうひ おうだんじ どうしゃ どう
(濃飛横断自動車道)

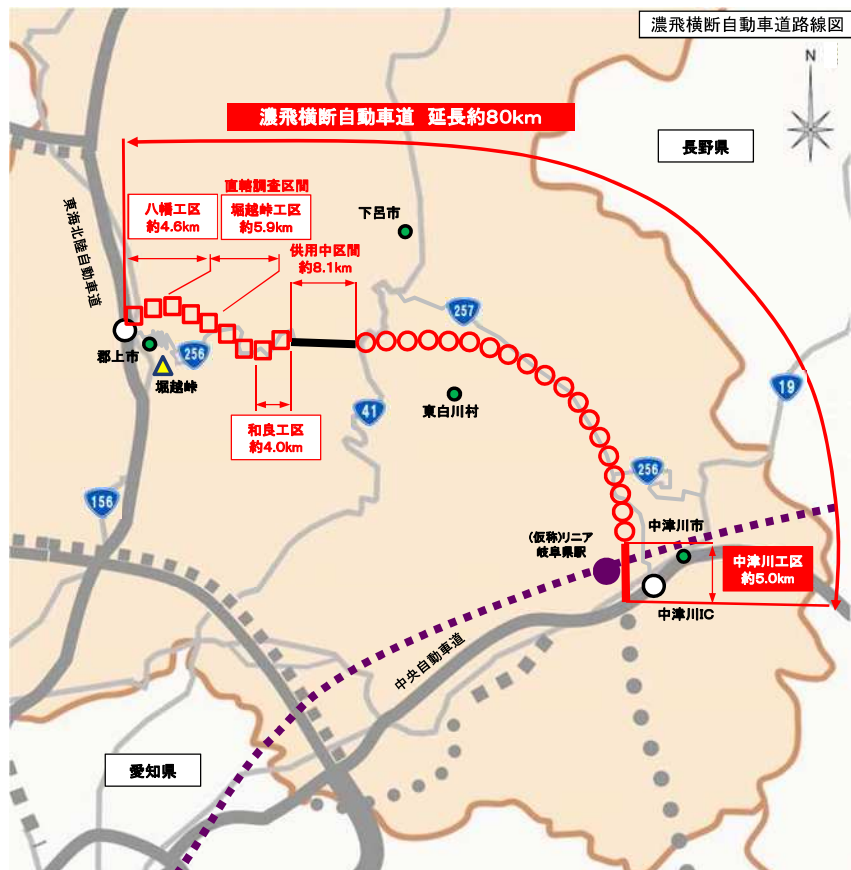
なかつがわ

中津川工区

岐阜県 県土整備部 道路建設課
令和4年11月16日



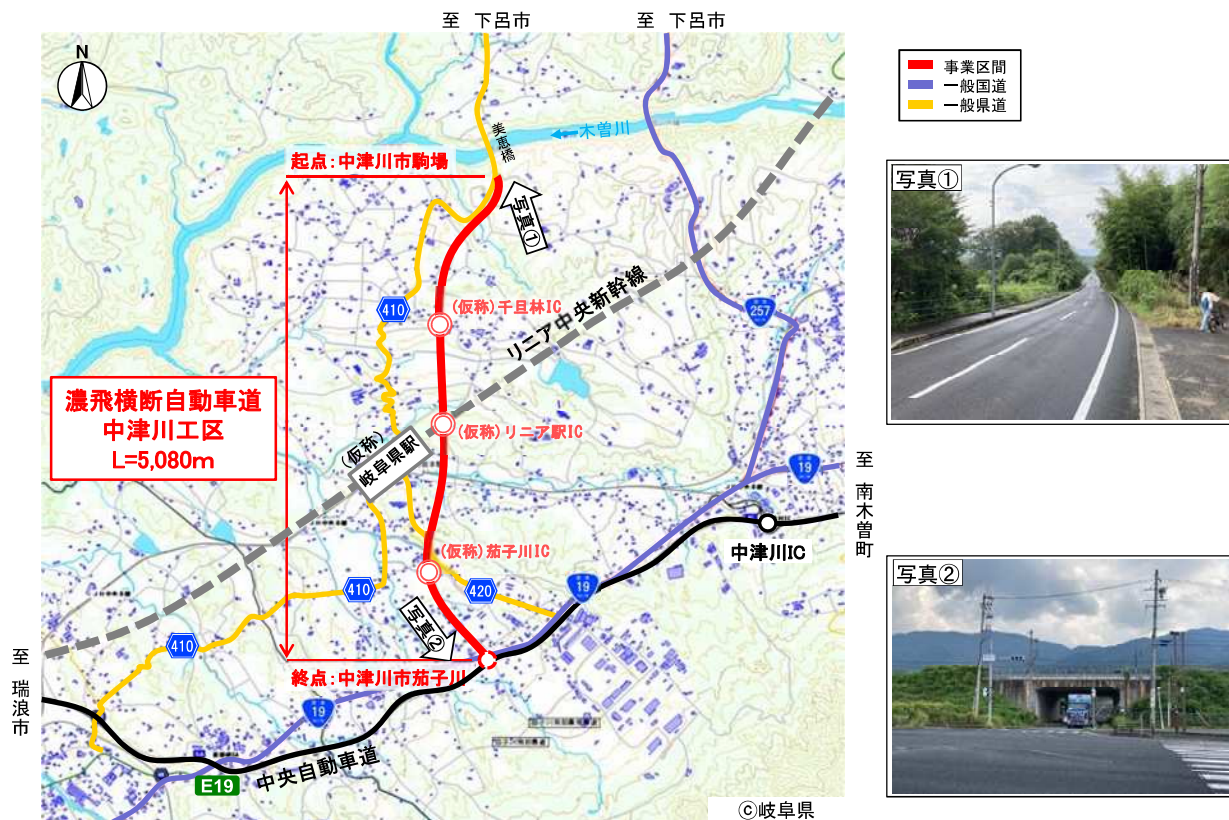
位置図1



全体	約 80km
開通済	約 8.1km(10%)
事業中	約 5.0km(6%)

【凡例】	
計画区間:	○○○○○
調査区間:	□□□□□
事業区間:	■

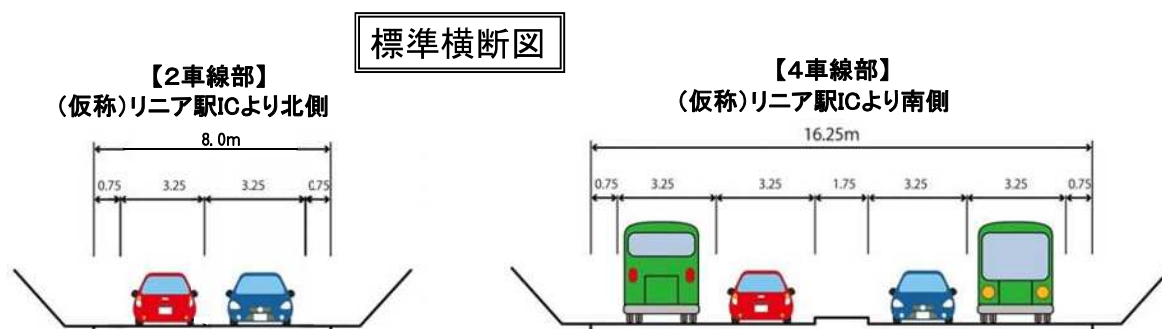
位置図2



2

事業概要

- なかつがわ こまんば なかつがわ なすびがわ
- ◆起 終 点：中津川市駒場～中津川市茄子川
 - ◆全体延長：5,080m
 - ◆総事業費：約440億円
 - ◆事業着手：平成28年度
 - ◆完成予定：令和9年度（（仮称）リニア岐阜県駅の開業に合わせて）
 - ◆道路規格：第3種第2級
 - ◆幅 員：車道 3.25m×2車線（（仮称）リニア駅ICより北側）
3.25m×4車線（（仮称）リニア駅ICより南側）



3

事業の変更点

変更点：総事業費の変更および一部区間の高架構造への変更

(総事業費：約300億円→約440億円)

- 高盛土で整備予定(総事業費：約300億円)であった(仮称)茄子川ICから国道19号の間において、詳細な地質調査を実施。
- 地質調査の結果、大規模な地盤改良が必要となったため、構造を含め再検討。
- 再検討の結果、当該区間において地盤改良を含めた高盛土による整備に比べ、より経済的な高架構造による整備へ変更。**【高盛土構造+地盤改良】** 事業費 約446億円 **>** **【高架構造】** 事業費 約440億円



4

事業の目的①

活力：観光交流の推進

- 濃飛横断自動車道及びリニア中央新幹線の整備により、県内外の移動時間が大幅に短縮
- 部分供用時には観光客が大幅に増加しており、全線供用により沿線市村のみならず県内全体で観光客の増加に期待
- 濃飛横断自動車道とリニア中央新幹線が生み出す「新たな観光リング」により、県全体で広域観光周遊ルートを形成

【移動時間の短縮】



【広域観光周遊ルート「新たな観光リング」の形成】



【部分供用による観光への効果】※平成28年3月約8km供用時



■ 周遊ルート沿線の主な観光地と入込客数

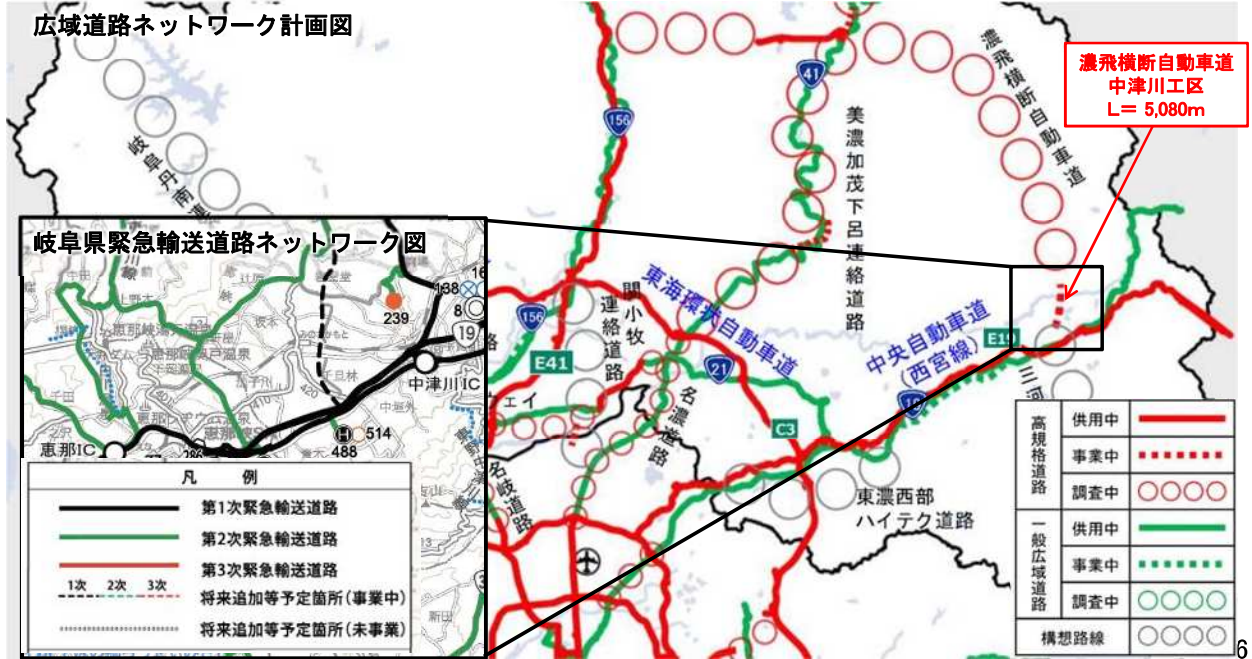


5

事業の目的②

安全・安心：災害時に有効に機能するネットワークの確保

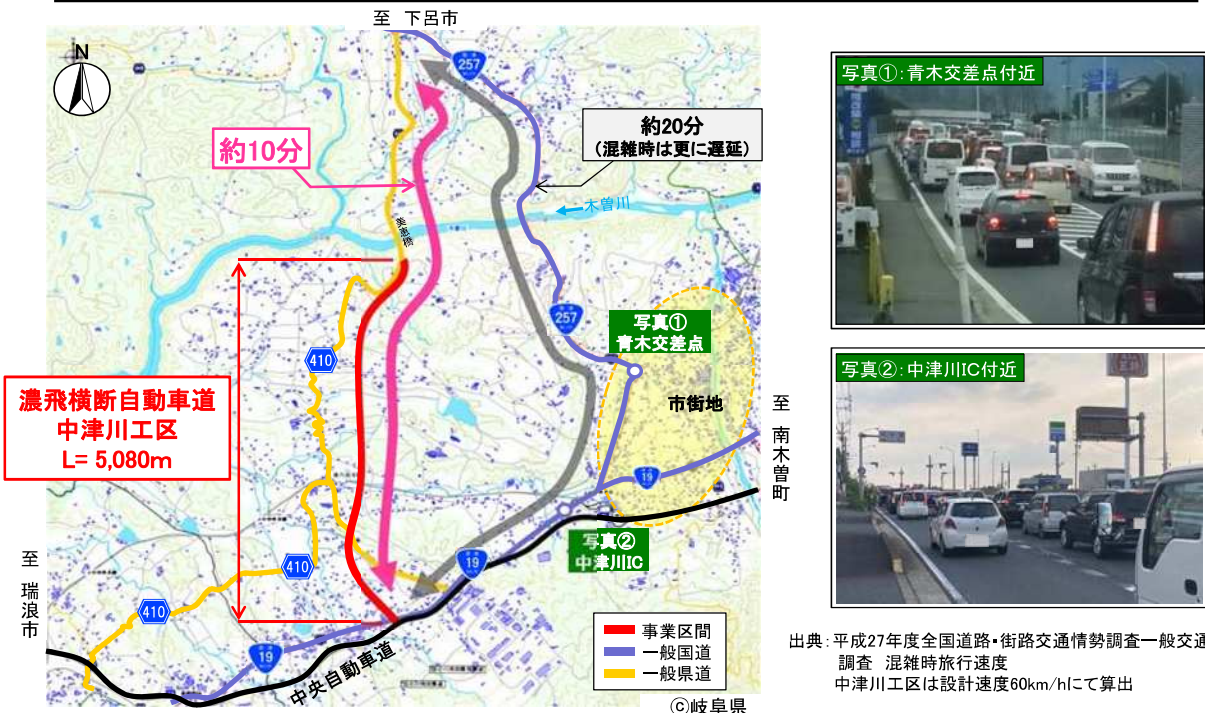
■濃飛横断自動車道 中津川工区は災害に備えたりダンダンシー確保・県土強靱化などを目的とした「広域道路ネットワーク計画」への位置付けがされていることに加え、整備後には第1次緊急輸送道路となる予定であり、災害時のネットワーク強化が期待される。



事業の目的③

安全・安心：渋滞緩和による円滑な交通の確保

■中津川市街地では通勤時間帯を中心に慢性的な渋滞が発生
 ■中津川工区を整備することで、渋滞の回避や交通の分散などにより円滑な交通を確保



事業を巡る社会経済情勢等の変化

◆中津川都市計画事業 リニア岐阜県駅周辺土地区画整理事業

- （仮称）リニア岐阜県駅周辺では、濃飛横断自動車道 中津川工区のほか、岐阜県の東の玄関口としての中津川市による土地区画整理事業が推進
- 令和4年1月から造成工事が着手され、更なる地域活性化が期待



事業名称:	中津川都市計画事業 リニア岐阜県駅周辺土地区画整理事業	
施行者:	中津川市	施行区域の面積: 21.63ha
事業費:	85.3億円	都市計画決定日: 平成29年4月1日
事業認可公告日:	平成29年10月17日	事業計画変更公告日: 令和3年11月1日(第2回変更)
事業施行期間:	平成29年10月17日～令和11年3月31日	

令和3年11月1日時点

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
A 調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
B 設計									
C 施工									



出典：中津川都市計画事業 リニア岐阜県駅周辺土地区画整理事業パンフレットより（一部加筆）

8

事業の進捗状況

全体進捗率 15%*

用地進捗率 48%*

工事進捗率 10%*

※ 令和4年度末事業費ベース

《工事進捗状況》



《環境調査の実施状況》



オオタカ観察状況



©岐阜県

9

事業の施工状況

下部工施工状況



上部工施工状況



- 令和2年度から橋梁下部工に着手
- 一部、令和3年度から橋梁上部工に着手

10

コスト縮減の取り組み

- 発生土の流用等によるコスト縮減は計画段階から取入れた上で、最適な計画で工事を実施中
- 今後も技術革新による新工法、新材料等の情報を積極的に収集し、コスト縮減にむけ継続的に検討していく

11

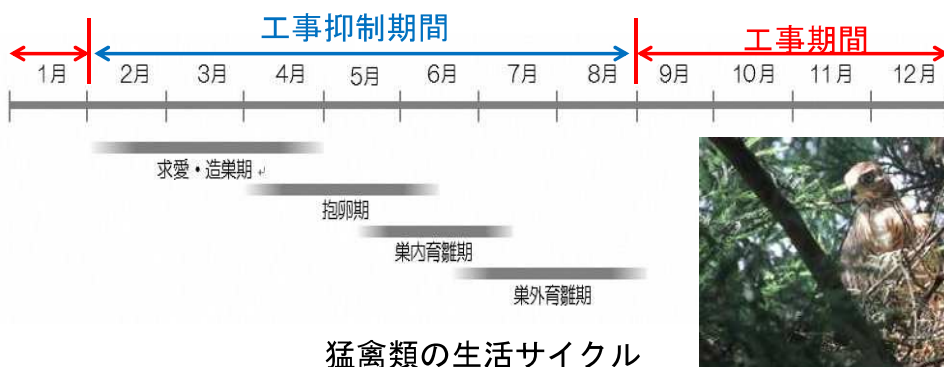
環境への配慮

◆希少な動植物に配慮した工事を実施

- 事業沿線に存在する猛禽類や、希少な植物に対する影響を把握するため、外部有識者を交え継続的なモニタリング調査を実施
- 工事を実施する際は、希少な動植物に影響がないよう有識者の意見等を参考に事業を進める。

《例）猛禽類への対応案》

猛禽類の繁殖への影響を抑えるため、モニタリング調査、有識者の意見を踏まえ、工事抑制期間を設定し、工事を実施する。



令和4年撮影（オオタカ雛鳥）

12

費用対効果事業分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 84 %
- 走行経費減少便益 効果全体の約 13 %
- 交通事故減少便益 効果全体の約 3 %

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.2$$

令和2年度
事業再評価時
2.0

※費用便益分析マニュアル(R4.3 国土交通省)に基づき算出

13

対応方針(案)

○濃飛横断自動車道 中津川工区の整備は、観光交流の推進や、災害時に有効に機能するネットワークの確保、渋滞緩和による円滑な交通の確保に大きく寄与する。

○地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



＝事業継続＝

**令和4年度第5回
岐阜県事業評価監視委員会
費用対効果分析資料**

■事業名

【道路改築事業】 「一般国道257号（濃飛横断自動車道） 中津川工区」

■事業内容

延長L=5,080m、幅員3.25×2車線（リニア駅IC以北）、3.25×4車線（リニア駅IC南）

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：R2)	(基準年：R4)	
事業期間		H28～R9	H28～R9	
費用 (億円)	事業費	239.7	362.9	
	維持管理費	7.2	8.1	
	更新費	-	0.0	
	合計（C）	246.9	371.0	
効果 (億円)	走行時間短縮便益	453.3	382.9	
	走行経費減少便益	27.1	61.1	
	交通事故減少便益	2.1	11.5	
	合計（B）	482.5	455.5	
費用対効果分析結果（B/C）		2.0	1.2	

※金額は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したものの。

■費用対効果分析の分析方法

・費用便益分析マニュアル／国土交通省 道路局 都市局/R4.2

■費用対効果分析結果の要因変化

【費用】

- ・費用を現在価値化する際の基準年を令和2年から令和4年に変更したことによる影響
- ・事業費が増額されたことによる影響

【C=+124.1億円】

【便益】

- ・将来OD表の変更による、計画交通量の減少に伴う影響
- ・費用便益マニュアルの改訂（令和4年2月）による、時間価値原単位、走行経費原単位、交通事故損失額算定式の変更に伴う影響
- ・便益を現在価値化する際の基準年を令和2年から令和4年に変更したことによる影響

【B=-27.0億円】

事業再評価 道路改築事業

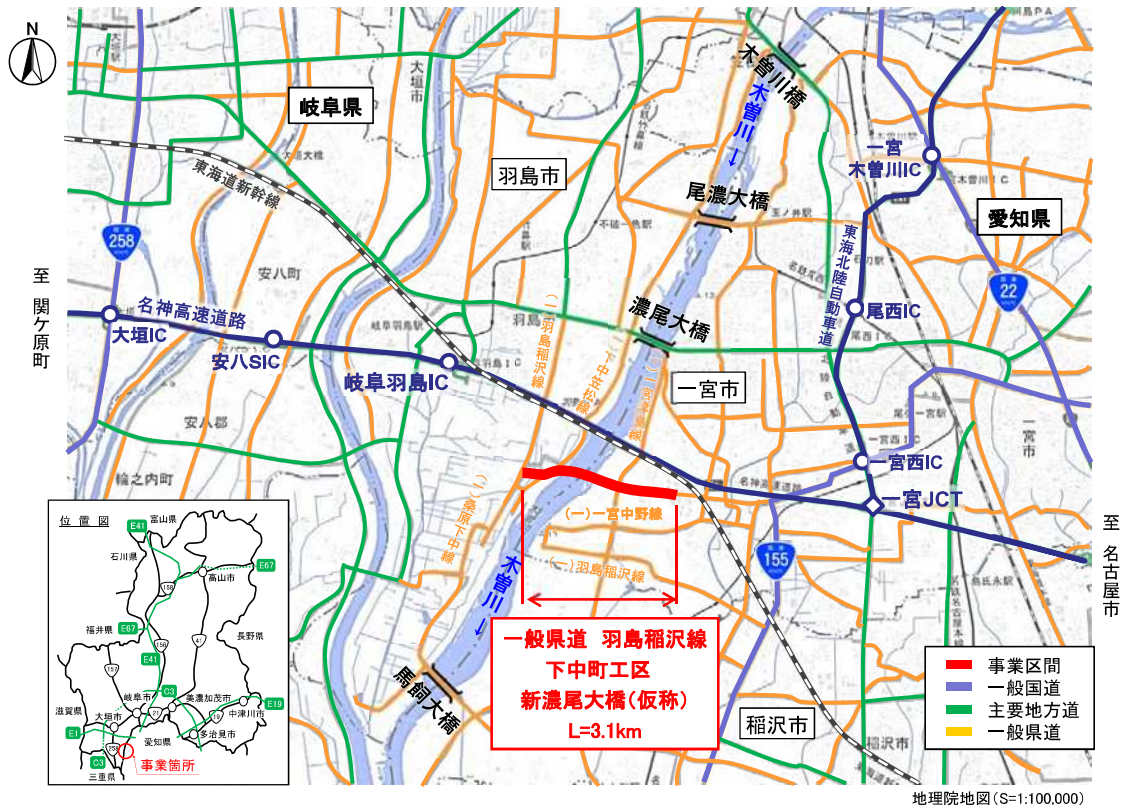
はしま いなざわ
一般県道 羽島稲沢線

しも なかちょう
下中町工区
しんのうび おおはし
(新濃尾大橋(仮称))

岐阜県 県土整備部 道路建設課
令和4年11月16日



位置図



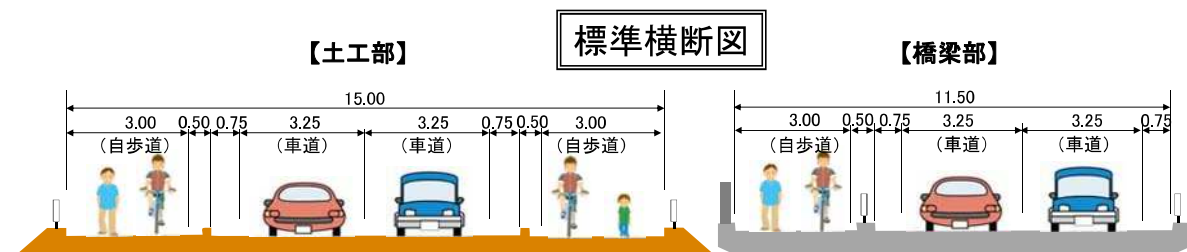
位置図 2



2

事業概要

- はしまし しもなちよう いちのみやし めいち
- ◆起 終 点：岐阜県羽島市下中町～愛知県一宮市明地
 - ◆全体延長：3.1 km（うち岐阜県事業区間1.5 km）
 - ◆総事業費：約290億円（岐阜県：108億円、愛知県：182億円）
 - ◆事業着手：平成13年度
 - ◆完 成：令和 7年度
 - ◆道路規格：第3種第2級
 - ◆幅 員：車道 3.25m×2車線
：自転車歩行者道 土工部 3.0m（両側）
橋梁部 3.0m（片側）

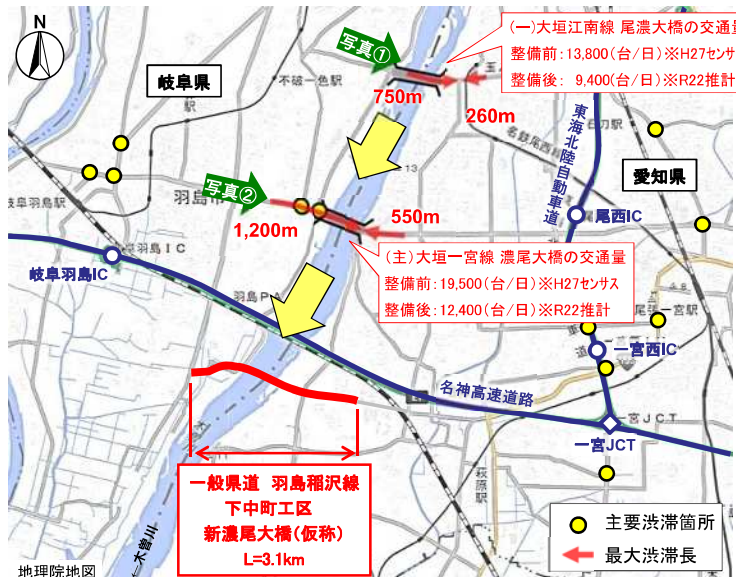


3

事業の目的①

活力：渋滞緩和による円滑な交通の確保

- 濃尾大橋を中心に主要渋滞箇所が点在し、周辺道路では朝夕ピーク時に慢性的な渋滞が発生
- 当該区間の整備により、木曾川渡河部の交通が転換し、円滑な交通を確保



地理院地図
 主要渋滞箇所：岐阜県道路交通渋滞対策推進協議会（令和4年8月時点）
 愛知県道路交通渋滞対策推進協議会（令和3年3月時点）
 最大渋滞長：令和2年7月22日（水）朝ピーク時

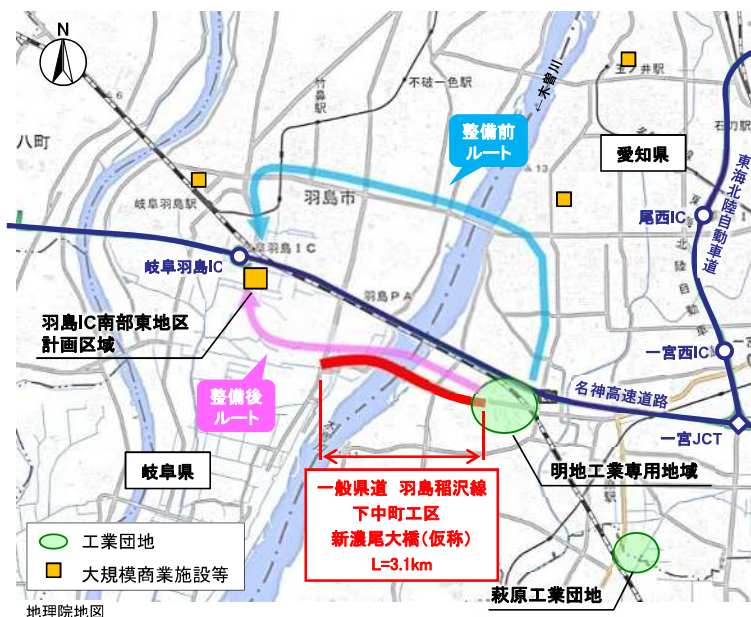
整備前交通量：平成27道路交通センサス
 整備後交通量：新濃尾大橋（仮称）整備後の将来交通量



事業の目的②

活力：隣接県との産業振興の推進

- 周辺では工場や大規模商業施設が立地
- 木曾川渡河部のボトルネックを解消し、物流の効率化や産業振興を促進



地理院地図

■岐阜羽島インター南部東地区計画区域



出典：羽島市HP

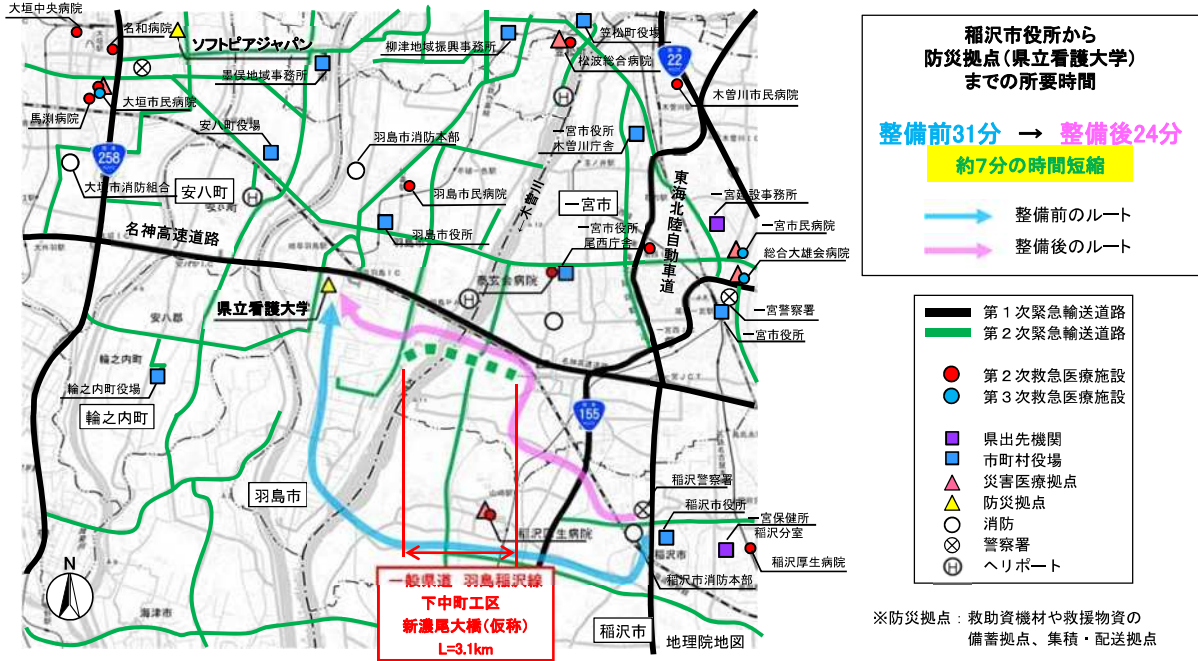
明地工業専用地域から
 岐阜羽島ICまでの所要時間
整備前23分 → 整備後11分
約12分の時間短縮

→ 整備前のルート
 → 整備後のルート

事業の目的③

安心・安全：災害時に有効に機能するネットワークの確保

- 当該区間は第2次緊急輸送道路に指定予定
- 県境の救援物資の搬送経路を確保し、緊急輸送道路の機能を強化



事業を巡る社会経済情勢等の変化

◆周辺開発の進展

- 岐阜羽島 I C 周辺では、大規模商業施設の立地や工業団地への企業が進出
- 当該区間の整備により、岐阜羽島 I C へのアクセスが向上し、物流強化や商業施設利用者の増加を促進



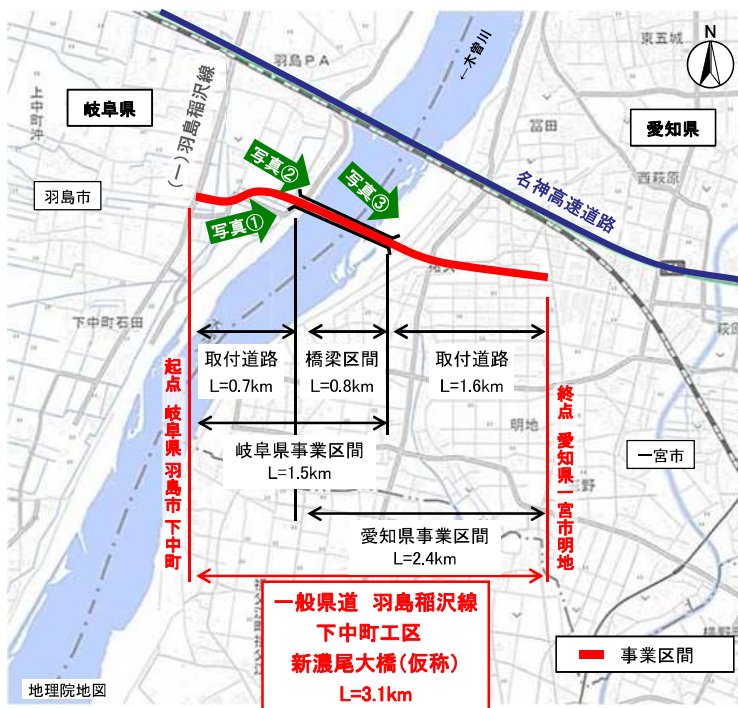
事業の進捗状況

全体進捗率 90%

用地補償進捗率100%

工事進捗率88%

※ 令和4年度末事業費ベース



8

事業の施工状況(橋梁区間)

下部工施工状況

上部工施工状況



- 下部工は令和3年度までにすべて完了
- 愛知県側の上部工(P5～A2間)及び岐阜県側の上部工(A1～P5間)の架設工事を実施中

9

事業の施工状況(取付区間)

岐阜県側施工状況



愛知県側施工状況



■岐阜県側

- ・起点部(写真手前範囲外)約280mは、平成29年に完成
- ・終点側(写真範囲区間)約460mは、上部工架設工事でのヤード撤去後に盛土・舗装等の工事を実施予定

■愛知県側

- ・昨年度、高架橋の上部工が完成
- ・現在は舗装・安全施設等の工事を実施中

10

コスト縮減の取り組み

- ・取付道路部における発生土流用等のコスト縮減を取り入れた上で、最適な計画で工事を実施中
- ・技術革新による新工法、新材料等の情報を積極的に収集し、コスト縮減にむけ継続的に検討していく

11

自然環境への配慮

◆学識経験者による委員会の設置

- 新濃尾大橋架橋予定の木曾川に、イタセンパラ(環境省絶滅危惧ⅠA類、岐阜県絶滅危惧Ⅰ類、愛知県絶滅危惧ⅠA類)の生息を確認した。
- このため「新濃尾大橋(仮称)工事における環境監視調査等検討委員会」を設置し、河川環境に配慮した計画を立案した。
- 工事箇所周辺のイタセンパラの追い出しの実施。イタセンパラが産卵に使用する二枚貝の避難移植の実施。



環境監視調査等検討委員会(R1)



イタセンパラ



避難移植(R1)

12

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 90%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 10%
- 交通事故減少便益 効果全体の約0.1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.2 \quad \left[\begin{array}{l} \text{前回再評価時} \\ \text{(R2年度)} \\ 1.2 \end{array} \right]$$

※費用便益分析マニュアル(国土交通省R4.2)に基づき算出

13

今後の方針(案)

○新濃尾大橋（仮称）の完成は、円滑な交通の支援、産業振興の推進、災害時に有効に機能するネットワークの確保に大きく寄与する。

○地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

令和4年度第5回
岐阜県事業評価監視委員会
費用対効果分析資料

■事業名

道路改築事業 一般県道 羽島稲沢線 下中町工区（新濃尾大橋（仮称））

■事業内容

延長L=3.1km、幅員3.25×2車線

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：R2)	(基準年：R4)	
事業期間		H13～R5	H13～R7	
費用 (億円)	事業費	308.4	337.0	
	維持管理費	1.8	2.2	
	合計（C）	310.2	339.1	
効果 (億円)	走行時間短縮便益	342.2	353.7	
	走行経費減少便益	25.0	37.8	
	交通事故減少便益	0.78	0.4	
	合計（B）	367.9	391.9	
費用対効果分析結果（B／C）		1.2	1.2	

※金額は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したものの。

■費用対効果分析の分析方法

・費用便益分析マニュアル／国土交通省 道路局 都市局/R4.2

■費用対効果分析結果の要因変化

【費用】

・費用を現在価値化する際の基準年を令和2年から令和4年に変更したことによる影響
【C=+28.6億円】

【便益】

・費用便益分析マニュアルの改訂（R4年2月）による、時間価値原単位、走行経費原単位、交通事故損失額算定式の変更
・便益を現在価値化する際の基準年を令和2年から令和4年に変更したことによる影響
【B=+24.0億円】

事業再評価 県代行事業

2級市道 あと つ がわ 跡津川線 (あと つ がわ 跡津川工区)

岐阜県 県土整備部 道路建設課
令和4年11月16日



0

県代行事業とは

◆県代行事業制度

- 過疎地域、特別豪雪地帯、振興山村における基幹的な市町村道で国土交通大臣が指定する道路の新設及び改築事業
- 都道府県が道路管理者である市町村に代わって事業実施
- 補助事業の経費については都道府県が負担

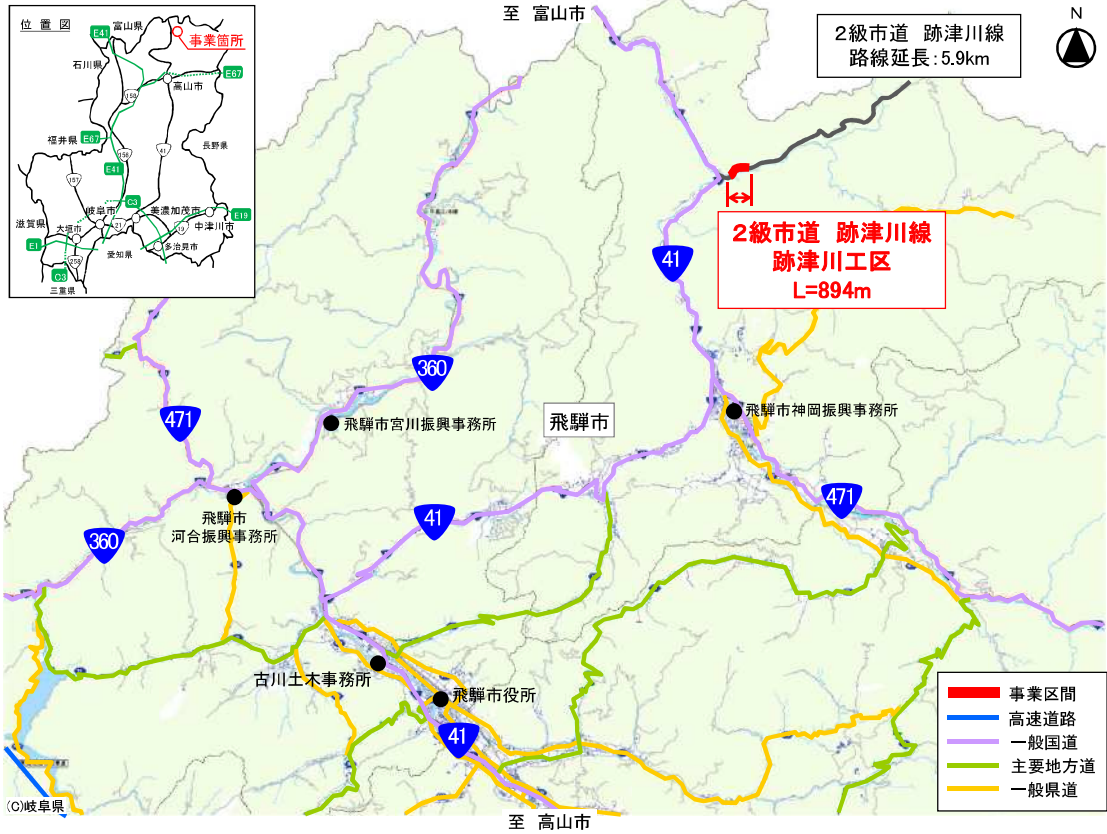
◆根拠法令

- 過疎地域自立促進特別措置法 ⇒ 過疎代行事業

過疎代行事業として、岐阜県が飛騨市に代わって事業実施

1

位置図



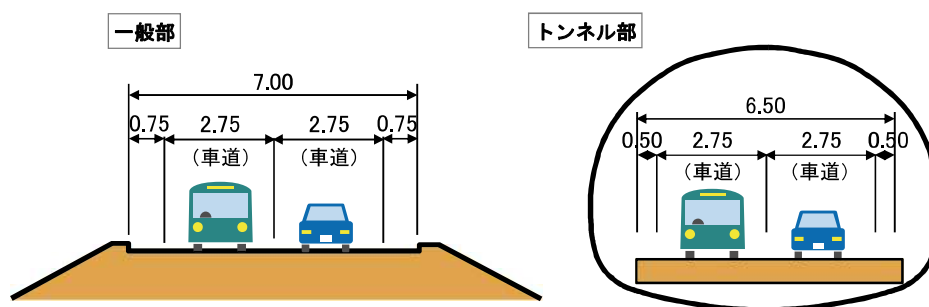
位置図 2



事業概要

- ◆起終点：飛騨市神岡町土^{ひだしかみおかちょうど}～飛騨市神岡町跡津川^{ひだしかみおかちょうあとつがわ}
- ◆全体延長：894m（トンネル延長：349m）
- ◆総事業費：約31億円
- ◆事業着手：平成16年度
- ◆完成：令和9年度
- ◆道路規格：第3種第4級
- ◆幅員：車道 2.75m×2車線

標準横断図



4

事業の目的①

安全・安心：隘路・線形不良区間の解消による円滑な交通の確保

■隘路・線形不良箇所の解消やトンネル整備により、交通の安全や円滑化、落石や雪崩等の危険を回避。



5

事業の目的②

活力：学術研究の支援

- スーパーカミオカンデやKAGRA等の**研究施設へのアクセス道路は市道跡津川線のみ。**
- 国費により学術研究経費の支援を受けているほか、国際共同観測にも参加。
- 天皇后両陛下を始め、大臣などが視察。

○国際共同観測

- 2020年 4月 KAGRAはドイツの重力波検出器GE0600と共同観測を実施
- 2022年12月 KAGRAはLIGO(アメリカ)・Virgo(イタリア)との共同観測を予定

○近年の見学会等の開催状況

- 2017年11月 スーパーカミオカンデ一般公開 (約300人参加)
 - 2019年 7月 ジオスペースアドベンチャー (約800人参加)
[スーパーカミオカンデなどを活用して行う地中探検イベント]
 - 2019年 8月 スーパーカミオカンデ日体験 (中高生26人参加)
 - 2019年11月 スーパーカミオカンデ一般公開 (約300人参加)
 - 2020年11月 スーパーカミオカンデ・KAGRAオンライン一般公開
 - 2021年11月 スーパーカミオカンデ・KAGRAオンライン一般公開 など
- ※2020年と2021年のジオスペースアドベンチャーは中止



スーパーカミオカンデ一般公開(2019年11月)
出典：東京大学HP



井上内閣府特命担当大臣視察(2021年1月)
出典：内閣府HP

○視察状況

- 2004年 7月 天皇后両陛下下視察
- 2012年 2月 参議院文教科学委員会視察
- 2016年 5月 行政改革担当大臣視察
- 2016年12月 文部科学大臣視察
- 2021年 1月 内閣府特命担当大臣視察 など

6

事業を巡る社会経済情勢等の変化

◆研究施設の拡張

■ スーパーカミオカンデ (世界最大の水チェレンコフ宇宙素粒子観測装置)

- 1996年 4月 観測開始
- 2020年 8月 ガドリニウムを加え新生スーパーカミオカンデがスタート (ニュートリノの観測感度が向上、超新星背景ニュートリノの世界初観測が期待されている)

■ ハイパーカミオカンデ (スーパーカミオカンデの後継施設)

- 2020年 2月 建設開始
- 2021年 5月 アクセストンネル掘削開始
- 2027年度 観測開始予定



ハイパーカミオカンデ着工記念式典(2021年5月)
出典：東京大学宇宙線研究所HP

■ KAGRA (世界最大の水チェレンコフ宇宙素粒子観測装置)

- 2020年 2月 KAGRA重力望遠鏡 観測開始
- 2022年12月 国際共同観測に参加予定



KAGRAの観測開始を喜ぶ研究者(2020年2月)
出典：KAGRA HP

7

事業の進捗状況

全体進捗率 40%※

用地補償進捗率 100%※

工事進捗率37%※

※ 令和4年度末事業費ベース



事業の施工状況

(仮称) 跡津川橋 (R4.10)



- 令和4年度は、(仮称)跡津川橋の上部工を施工中
- 今後、(仮称)跡津川トンネル本体工事及び道路改良を進めていく予定

コスト縮減の取り組み

- ・発生土の流用等によるコスト縮減は計画段階から取入れた上で、最適な計画で工事を実施していく。
- ・今後も技術革新による新工法、新材料等の情報を積極的に収集し、コスト縮減にむけ継続的に検討していく。

10

自然環境への配慮

◆希少猛禽類に配慮した工事を実施

- 当該地域には希少猛禽類「クマタカ」が生息
- 学識経験者のアドバイスを受けてモニタリングを実施するなど、希少猛禽類に配慮しつつ工事を実施



飛騨市神岡町土区 成鳥
(撮影:平成30年1月)

クマタカ

◇分布

北海道、本州、四国、九州に分布するが西日本では減少しているという。国外では東アジア、台湾に分布する。県内では、飛騨市、高山市、郡上市、下呂市、揖斐川町、本巣市、八百津町などの山地帯で広く繁殖が確認されている。

◇貴重性

環境省絶滅危惧ⅠB類
岐阜県絶滅危惧Ⅱ類

11

費用対効果分析

事業の効果

研究施設利用者等の通行時における安全性の向上

投資的効果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 2.1$$

[前回再評価時
(H29年度)
2.7]

※本事業の効果は、費用便益分析マニュアル（国土交通省 道路局 都市局R4,2）に基づく3便益（走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益）で判断することは困難であるため、公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針（国土交通省H21.6）に基づき仮想的市場評価法（CVM）により便益を算出
※便益の算出以外は上記費用便益分析マニュアルに基づく

12

今後の方針(案)

○2級市道跡津川線の完成は、安全で円滑な交通の確保し、研究施設利用者等の安全確保および学術研究の発展に大きく寄与する。

○東京大学や飛騨市から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



= 事業継続 =

13

令和4年度第5回
岐阜県事業評価監視委員会
費用対効果分析資料

■事業名

道路改築事業 2級市道跡津川線 跡津川工区

■事業内容

延長L=894m、幅員2.75×2車線

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：H29)	(基準年：R4)	
事業期間		H16～R9	H16～R9	
費用 (億円)	事業費	15.4	29.7	
	維持管理費	0.4	0.6	
	合計 (C)	15.8	30.3	
効果 (億円)	便益 (CVM)	42.1	65.1	
	合計 (B)	42.1	65.1	
費用対効果分析結果 (B/C)		2.7	2.1	

※金額は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したものの。

■費用対効果分析の分析方法

- ・費用便益分析マニュアル／国土交通省 道路局 都市局/R4.2
- ・公共事業評価の費用便益に関する技術指針／国土交通省/H21.6

■費用対効果分析結果の要因変化

【費用】

- ・トンネル工事費等の増額
- ・費用を現在価値化する際の基準年を平成29年から令和4年に変更したことによる影響
【C=+14.3億円】

【便益】

- ・CVMによる便益の再算定に係る便益の増加
- ・便益を現在価値化する際の基準年を平成29年から令和4年に変更したことによる影響
【B=+23.0億円】